

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス ニコニコトライステーション				公表日 2025年2月20日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個室を利用して個別支援プログラムに活用している 個室が多く支援プログラムに活用している 利用者がクールダウン出来る利点がある	事業所には10室の個別部屋がある為、小グループに向けた個別プログラムにはとても取り組みやすい環境である。感染症予防にも貢献出来ている。 Demeritとしては、支援者が少数派一の時に利用者への見守りが把握しにくい面がある。日々のミーティングで利用者の特性に合わせて部屋割りを工夫して問題が起きないように気をつけている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		○	必要な職員配置が難しい際は、優先順位をつけて職員を配置し、事故防止第一に努めている。	個別対応が必要な時に少ないと感じる 個別対応が必要な状態の利用者が多くいた場合は、改善が必要ではないかと思われる	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	レッスンルームや用具室、食堂など何の用途で用いる部屋が分かりやすい。	階段があり、手すりはあるが賃貸物件の為、バリアフリー化は困難	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			利用者が自分で散らかしたものをきれいにする気持ちが育まれるような視覚支援を取り組んだ方がいいと思われる	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			事業所には10室の個別部屋がある為、小グループに向けた個別プログラムにはとても取り組みやすい環境である。感染症予防にも貢献出来ている。 Demeritとしては、支援者が少数派一の時に利用者への見守りが把握しにくい面がある。日々のミーティングで利用者の特性に合わせて部屋割りを工夫して問題が起きないように気をつけている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		ミーティングにて共有できている	1ヶ月おきに全体ミーティングを開催してPDCAサイクルに取り組んでいる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			公表と同時に各事業所の責任者がスタッフに向けて改善点を共有している。企業全体で評価を前向きに受け止めることが出来ている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員が意見を提案しやすい環境なので、業務改善につながっている	特に子供の安全面に置いては厳しい管理体制が引かれているが、スタッフの中には責任を負担に感じることもあるので、組織内に相談役を配置しメンタルケアも行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部評価を行っているかわからない	外部評価は正式には行っていない。相談支援事業に協力者を募っているところです。今4月からは、どのような評価基準で実施するかを決めて行えるようにしたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		度々、研修の案内がある。もう少し職員の研修を行った方がいいと思う レッスン時のアセスメント着眼点など	研修参加は常に呼びかけている。研修窓口も担当者を配置し、全体の受講頻度、スタッフの受講した項目等、管理者が把握出来るようになっている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムの見直しや新規作成をしており、その時の利用者の困り感に沿った支援プログラムを作成できている。当日ではなく、事前にプログラムがわかった方がいいと思う（せめて1週間前に来週分の掲示など）	支援プログラムにおいては、AIコミーの導入で取り組むべき課題が明確になっている。 ホームページに公表中。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		できている部分もあるが、不十分に感じる	学校、放デイの情報を吸い上げ、利用者の困り感には、常に手立てを考案し実行している。スタッフ間での共有をして役割を決めて支援を実行している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			学校、放デイの情報を吸い上げ、利用者の困り感には、常に手立てを考案し実行している。スタッフ間での共有をして役割を決めて支援を実行している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			学校、放デイの情報を吸い上げ、利用者の困り感には、常に手立てを考案し実行している。スタッフ間での共有をして役割を決めて支援を実行している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			支援ソフト、コミーの導入フォーマルなアセスメントを行えている。日々の行動観察もスタッフで毎日、情報交換を行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定されている。その上で、具体的な支援内容が設定されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			専門性のある多職種でチームを組み、判断基準がぶれないように、定期的に話し合いの場を儲け立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		様々な研修や教材を活用し、既存の活動プログラムにこだわらず新しい活動の立案ができている	活動プログラムは評価が達成するまで、次のプログラムには基本移らないが、気分転換になるような楽しい活動にもきちんと取り組んでいる。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団に入ることが難しい利用者に寄り添った支援に取り組んでいる	個別プログラムを組み、事業所独自のサポートを行っている。個別対応が必要な状態の利用者がいた場合、児発管が中心となって個別支援を行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			支援時の注意事項や役割分担について確認できていない時もあるので、毎日のミーティングの中に組み入れたい
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			毎日、振り返りを行い改善につなげている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			記録は取れていない。利用者担当ごとに支援の検証を見発管に報告するようになっていいる。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			6カ月に一回のモニタリングを行っている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			複数、組み合わせで行っている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			子供の意見ややりたいことを対話し、次回プログラムに入れる等、利用者の満足度の向上に向けて行っている。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			もちろんです。こどもの状況をよく理解した者が参画している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行っている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等をしている。連携は出来ている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受けている。社会ネットワークは完璧に近い。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園で遊ぶ際など、地域の子どもと場所や遊具を譲り合いながら遊んでいる	年に2回、交流イベントを企画し実施している。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			全くつながりが無い。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			こどもや家族の意向を確認する機会を設けている。常に対話し行っている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			放課後等デイサービス計画を示している。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っている。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○			父母の会は今年4月～正式に発足している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			苦情の窓口を一本化し、契約時に説明を行い、苦情があった時は窓口の担当者より、常に懇切丁寧に対応を行っている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			通信は紙ベースでは行っていない。Hp上で更新し紹介している。ペーパーレス化に取り組んでいる。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			スタッフは入職時に、個人情報の取扱いについて教育を受けており、会社の重要事項説明書にも署名、捺印を押している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			言語コミュニケーションを行いながら、絵やカードを使って視覚支援を行っている。活動時のすべてに配慮を行っている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域で開催されている行事に参加し、地域とのつながりを持っている	事業所の地域交流行事は年一回企画し、実行している。参加者も多く、地域交流目的を果たせるよう、スタッフにも同じ意識を持って取り組ませている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		避難訓練など、災害発生時を想定した訓練を職員間・利用者も含めて取り組んでいる	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		てんかん発作時の勉強会を開催したり、服薬がある際の情報共有をしている	利用前にアセスメントをしっかりと行い、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を把握出来るようにしている。対応時の緊急性のあるものは、緊急時対応マニュアルに沿って行動するように訓練、指導を行っている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			重篤な症状になるお子さんの利用は、今のところない。指示書をいただいたことがない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			安全管理については、事業所で起こった、ヒヤリハットを基にPDCAサイクルを実施している。情報が支援者間に伝わるように、ITツールを使って情報の交換をしている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			子供の安全については、安全管理の指針に基づき取り組み内容をホームページにて情報開示を、今年4月にする予定である。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		毎日のミーティングにて、ヒヤリハットを共有している事業所全体でヒヤリハットが共有され、いつでも閲覧できる環境である。	安全管理については、事業所で起こった、ヒヤリハットを基にPDCAサイクルを実施している。情報が支援者間に伝わるように、ITツールを使って情報の交換をしている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			定期的にスタッフのメンタル状況を把握できる体制を確保できるよう努力している。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			身体拘束をやむ負えず行う場合は、事前に保護者の同意を得る書面を作成し説明を行っている。放課後等デイサービス計画にも反映している。